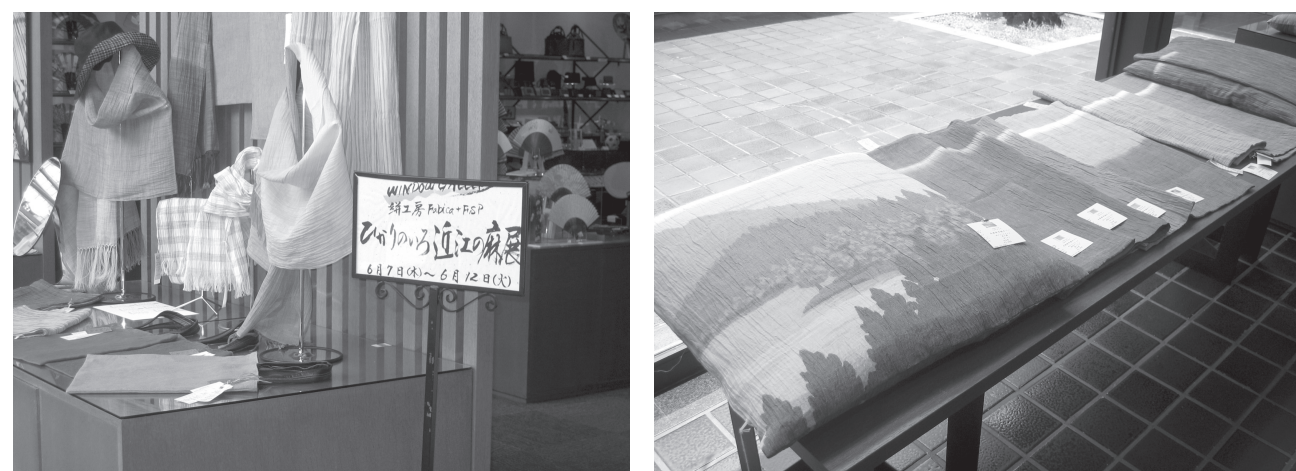


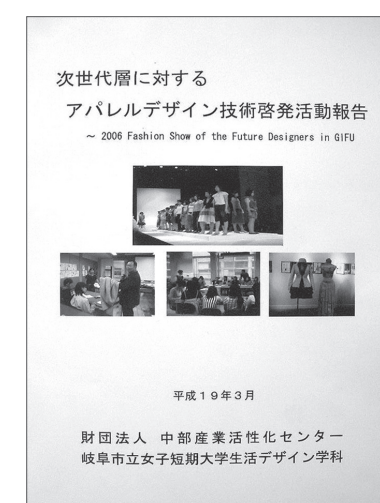
ひかりのいる近江の麻展
一心地よい伝統の布から生まれる思いがけないモダンさ—



■ 紺工房 Fabrica ひかりのいる近江の麻展
■ 2007年6月7日～12日
■ 京都クラフトセンター1F

もともと日本には日常生活の中に四季を取り入れ、暮らしを楽しむ工夫がありました。風にゆれる麻のれんや、軒につるした風鈴の音で涼を感じ、寝具や座布団、肌着や服など、肌に触れるものにはサラッとした麻素材やちぢみを使用し、暑さを和らげ快適に過ごしていたのです。今でこそロハスやエコという言葉を用いていますが、かつては意識しないままに優しく、自然にも優しい日本の暮らしが普通にあったのです。これら日本人の知恵を再認識し、昔の日本の生活に戻るのではなく、その知恵と工夫を感性として取り入れ、現代の生活に再生して取り入れていけるように、また次の世代に繋がるように、そのために提案できる製品の開発や販売、プレゼンテーションを行っていきたく考えています。早く、安く、また余分な付加価値を作ってきたがために失われてしまった上質な素材、時間の掛かる仕事、職人魂・・・今こそあえて取り戻したいと思っています。私は、滋賀県湖東産地で麻織物の仕事に関わって、25年が経ちました。日本でしか出来ないこと、滋賀県でしか出来ないこと、湖東産地でしか出来ないことを追求し、この産地で日本製を作り続けていきたいと思っています。
(北川 陽子)

次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発活動報告
2006 Fashion Show of the Future Designers in GIFU



ファイナレ

財団法人 中部産業活性化センターからの受託事業として「次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発」に関する研究を岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科の研究代表として行い、その報告書をまとめた。

この受託事業の実施事項は

- 1) 地場産業としての繊維産業の研究
- 2) ファッションショーの企画・運営・実施
- 3) 提案する商品、デザイン画の展示会

実施対象は短大の学生とアパレル産業への就職を希望する中京地区の大学、高等学校、専門学校の学生(12校)

指導体制は生活デザイン学科の教官と外部専門家として、演出に涌井博之氏(HAIRO主催)、コーディネート指導に棚橋公子氏、「LOHAS」指導近藤健一氏(大正紡績株式会社取締役)、総合プロデュース伊藤陽子。実施母体は伊藤の講座「ファッションデザイン演習II(実践)」である。

ファッションショーは2部構成

■第1部 2006 Exhibition of the Future Designers in GIFU
テーマ ～ロハスな装い～

地域の素材を用いて普段の生活で着用できる、「こころ」と「からだ」「地球」に優しいライフスタイルに相應しいファッションをデザインしてください。という呼びかけで作品募集した。制作には後援企業からの生地を提供を受け、それをスワッチにして送り、その布地でデザインを行い、使用する布地の要望を聞いて各校へ渡し制作してもらった。作品数は68点。後援、協賛企業から多数の奨励賞・副賞の提供を受けた。

■第2部 「GIFUを着る」-happy clothing-

2002年から、伊藤の授業の一環として、学生が岐阜アパレル企業を訪問し、製品を借り受け、それらをミックスして「若者の着るファッション」としてコーディネートし、ファッションショーを行ってきた。その継続であり、今回はPart Vになった。

日時:平成18年7月23日(日) 開演14:00-15:00

会場:ば・る・るプラザ GIFU2F ば・る・るホール

このファッションショーを実施した記録を授業時間を追って記述し、当日の様子、奨励賞、参加作品及び11月23日～29日にアクティブG「TAKUMIミュージアム」で行った第1部作品の展示会を記載した。

平成19年3月 制作:中部産業活性化センター 記述:伊藤陽子107P